

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.8(2020年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『ここまでわかった 新型コロナ』 上久保靖彦・小川榮太郎

コロナについての常識を覆す本が出ました！京都大学の上久保先生は欧米で感染爆発が起こったのは「都市を閉鎖したから」だと言います。閉鎖したために、かえって集団免疫が出来ずに重症化した患者が増えたのだと。日本では法律上ロックダウンできなかったことが、コロナに免疫を持つ人を増やして結果的には良かった、という主張です。県外移動の制限なんて、全くもって意味がなかったこととなります。他にも「マスク・三密・清潔」もコロナには関係ないとか。ぜひご一読を。

『ホテルローヤル』 桜木紫乃

11/13(金)から女優の波瑠の主演で映画が公開される、同名の直木賞受賞作です。題名はとあるラブホテルの名前で、この小説の舞台でもあります。官能性が小説の主眼ではありませんので、ご安心を。廃墟となったホテルから始まり、時間を逆行して小説が進んでいく設定で、男女の人間模様を時に悲しく、時にユーモラスに描いています。

ほかに話題作として、西尾維新『扇物語』や阿部智里『楽園の鳥』も入りました。

『私の身に起きたこと とあるウイグル人女性の証言』 清水ともみ

この絵本は作者の Twitter によって世界中に広がり、今はアメリカ大使館の公式ホームページなどでも無料で公開されています。それはこの本の作者や出版社が「中国のウイグル人に対するひどい人権侵害を1人でも多くの人に知ってもらい、1分1秒でも早くこの問題をなくしてほしい」と考えているからなんですね。この本の女性が受けたひどい仕打ちは、「100%実話」です！東高校図書館で借りても「アメリカ大使館 ウイグル」でググってもらってもいいですから、とにかく読んでください！！

『図説ベル・エポック 1900年のパリ』 フロラン・フェルス

「ベル・エポック(美しき時代)」という言葉をご存知?パリ万国博覧会の開催された1900年前後の、フランスのパリが最も繁栄していた時期を指します。この本は、エッフェル塔や万博、映画の発明者リュミエール兄弟、ロートレックやミュシャのポスターなど、数多くの「当時のパリの文化の香り」を写真と解説で今に伝えてくれます。芸術科の先生方の選書になります。

『生物から見た世界』

フォン・ユクスキュルほか

マダニは視覚・聴覚・味覚のない世界に住んでいます。触覚や嗅覚によって動物に飛びつき、味のないごちそう(血液)を飲んで子孫を増やします。獲物が来るまで10数年も絶食で生き延びるダニもいます。このような、生物から見た世界を「環世界」と呼んだ本書は、20世紀初頭の欧米の人間中心の世界観から見れば異端的でした。しかし、本書の価値は今では生物学者だけでなく、哲学者などからも認められるようになりました。理科の先生方の選書本です。

『不可能を可能にする大谷翔平 120の思考』

体育科の先生方の選書本です。投手と打者の「二刀流」に挑戦している大谷氏ですが、①投手専任で年俸の高い球団と②二刀流をやらせてくれるが年俸の安い球団、では「リンゴ10個で生活できるなら、二刀流をやりたい」と安い球団を選びました。「挑戦したい人」は必読ですね。



詩や歌詞の朗読コンテスト、図書館で開催します！

12月21日(月)午後2時開催予定です。好きな詩(短歌や俳句、歌詞、自作の詩もOK)を朗読して、その内容を出席者で語り合い、どの詩が一番心に残ったかを投票します。優勝者には景品もご用意しています。お申し込みは図書館まで。

『平安貴族嫉妬と寵愛の作法』 繁田信一

国語の先生方の選書本です。「古典」の分かりにくさって、単語や文法の違いにとどまりませんよね。例えば、『源氏物語』の冒頭で、光源氏の母が天皇から寵愛を受けて光源氏を産んだことで、宮中の女性たちから嫉妬を受けてひどいイジメにあう描写があります。あれなんかも、当時は「一夫多妻制」で光源氏の母は「ライバルたち」が多かったこと、また「正妻とめかけの地位は平等だった」ことを知っておかないと、あの嫉妬地獄の背景は分かりにくいです。ほかにも衣類や食事などの解説も詳しいですよ。

犬・猫が家族の一員の方は是非ご一読を！

阪神間に巨大地震が今後30年以内に起こる可能性は、何と80%です。ふだんから災害時の準備をしている人は少なくないでしょうが、犬や猫は災害時にどう対処すべきか、も大丈夫ですか？保健室の先生方の選定により、犬・猫についての対策本をご用意していますので、ぜひどうぞ。

今号のひとこと

Well, we all shine on,
like the moon and the stars and the sun.
そうだ、僕らは誰もが輝いているんだ、月や星々や太陽のように。 ジョン・レノン(1940-1980)

『インスタント・カーマ』より。もうすぐビートルズの中心メンバーであったジョン・レノンの、40年目の命日(12/8)がやって来ます。彼は真のカリスマで、平和の大切さを歌いながらニューヨークの町を歩くと、大勢の人が彼についていき、あたかも軍隊の行進のようになりました。また世界中の人々と分け隔てなく接し、妻と共に作った『イマジン』ではいつか国境がなくなって世界がひとつになる日を夢見ていました。しかし残念ながら、国や民族同士のいがみ合いは、ジョンの生きていた頃よりさほど改善していないかも知れません。彼の歌詞と音楽を、この機会にじっくり味わってみませんか。